

# 速報 立山12号

## 愛知高校

古典落語「井戸の茶碗」より

### 「井戸の茶碗」



#### ○幕間討論

Q キャストの話し方で気をつけたことや、参考にしたものは？

A 様々な落語家の落語を聞き、参考にした。また、口を奥まで開き、母音がしっかりと響くよう意識した。

Q 衣装はどのように準備した？

A 元から高校で落語をよくやっていたのもあり、部室にあったものと、部員の祖父母に借りたものを使用した。

Q 大家さんやほかの屑屋の人形は作った？

A 部員の手作り

Q セットを作る上でどこを工夫した？

A 場面展開をスピーディーに行うために、工夫した。例えば、作左衛門の座っている台の横に清兵衛が登りやすいようにはしごをつけたりした。

Q 清兵衛の役作りをするときに気をつけたことは？

A 静止しているときの行動に気をつけた。見た目の表現より、内面での感情表現を重視した。

愛知高校のみなさん、

お疲れ様でした！

#### ○あらすじ

浪人・千代田ト斎とその娘・千代が裏長屋で暮らしていた。ト斎は夜、表通りに出て売トをしており、ここ三、四日の間降り続いた雨で売トに出ることができず、そのうえ雨に打たれたのが元で風邪を引いてしまい、米や薬を買うお金もなく困っていた。

「すまんがの、屑屋さんと呼んできてくれぬか。」

屑屋の清兵衛にト斎の家に古くから伝わる仏像を売ることに。骨董品に目が利かなかったが、条件をつけて二百文で預かってもらうことに。運んでいる途中高木作左衛門に声をかけられ買い取ってもらい、彼と良助が仏像を洗っていると台座の和紙がはげ、中から五十両が出て、それをト斎に返そうとするが、なかなかト斎は受け取らず、譲り合いが始まってしまい清兵衛はその仲介役のために振り回されてしまう。一つの仏像によって正直者同士によって繰り広げられる古典落語劇

#### ○客席インタビュー

- ・人形を使うことによってキャストが少なくても表現の幅が広がっていて面白かった
- ・セットが簡易的で場転に時間がかからなかったのを見やすかった
- ・落語を引用した舞台が斬新で面白かった
- ・キャスト陣が一年生に思えないくらいレベルが高かった
- ・一人一人の表情がすごく良かった
- ・客の笑い待ちができていてよかった